

中小企業の業況は、収益面の増加が見込めない状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成24年1～3月期の実績と平成24年4～6月期見通しについての調査結果（回答率82%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月の今期（平成24年1～3月）の状況を集計したところ、業況判断DIはマイナスで推移しており、前は持ち直しの動きが見られていたが、今回は悪化した。

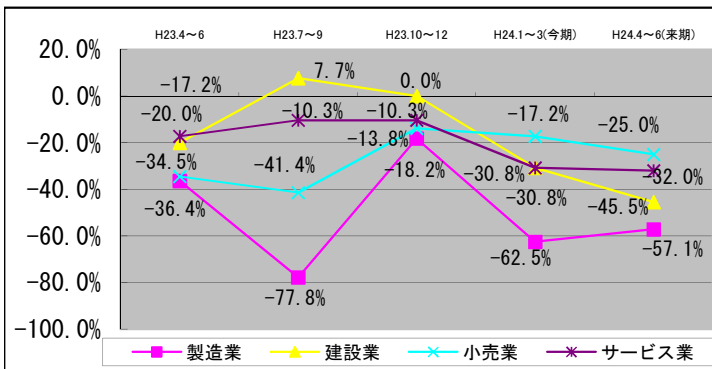
全業種のDI値に見る業況判断は、製造業：▲18%→▲63%、建設業：0%→▲31%、小売業：▲14%→▲17%、サービス業：▲10%→▲31%となった。売上・資金繰り・経常利益の各DI値が全業種とも前回より悪化しており、特に、回復基調であった製造業の悪化が顕著である。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の17.5%、来期設備投資を計画する見通しである企

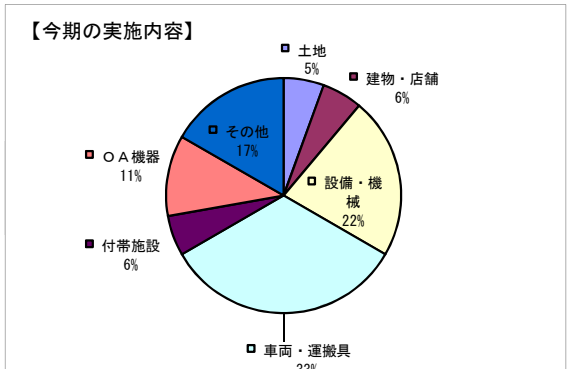
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-31%	↘	-32%	↘	-23%	↘	15%	↘	-41%	↘	-5%	↘
製造業	-63%	↘	-40%	↘	-30%	↘	20%	↗	-70%	↘	0%	→
建設業	-31%	↘	-31%	↘	-31%	↘	8%	↘	-46%	↘	8%	→
小売業	-17%	↘	-20%	↘	-23%	↘	17%	↗	-20%	↘	-11%	→
サービス業	-31%	↘	-37%	↘	-15%	↘	12%	→	-48%	↘	-8%	↘

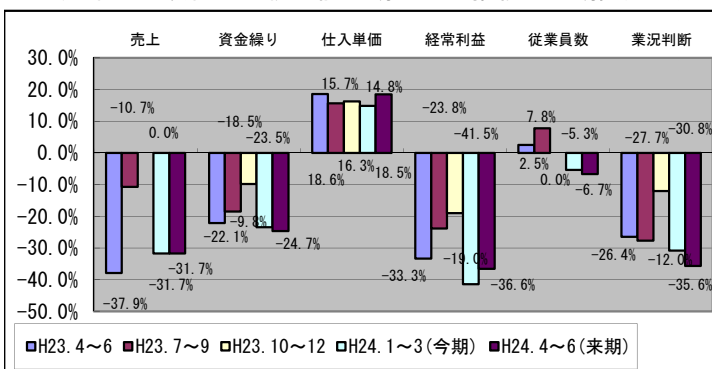
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	需要の停滞	26.9%	民間需要の停滞	29.4%	需要の停滞	24.0%	利用者ニーズの変化への対応	20.0%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難	15.4%	官公需要の停滞	23.5%	販売単価の低下・上昇難	13.3%	需要の停滞	20.0%
3位	新規参入業者の増加	11.5%	請負単価の低下・上昇難	17.6%	購買力の他地域への流出	10.7%	店舗施設の狭隘・老朽化	9.2%
	材料の入手難							
	材料費・人件費以外の経費の増							

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。